

I. はじめに

2026 年度年間聖句

「ひとりよりもふたりが良い。共に労苦すれば、その報いは良い。倒れれば、ひとりがその友を助け起こす。」
～コヘレトの言葉 4 章 9-10 節～

本校は、キリスト教を土台とした女子教育の中で、生徒一人ひとりの知的成長と人としての成長の両方を大切にしています。2026 年度は、新しい取組を次々に増やすことよりも、この二年間で始まった取組をよりよく理解し、よりよく実践し、よりよく共有することを重視する一年とします。

本校が育てたい力は、グローバルコミュニケーション、ハーツ、クリティカルシンキングの三つです。これらの力を授業、行事、支援、進路指導、学校文化の中でどのように具体化するかを、分掌・学年・教科を越えて共有し、学校全体の実践として確かなものにしていきます。

そのために 2026 年度は、学力向上を学校全体の中心課題として捉えること、支援を個人対応ではなく仕組みとして機能させること、多様な背景の生徒が学び合える環境を整えること、入試・進路・学びを同じ方向で結び付けること、価値観を日々の言葉と実践に表すこと、そして教育改革を支える財務・運営の基盤を整えることを重点として進めます。

また、よい実践を共有すること、報告・連絡・相談をより強い学校文化にすること、一人で判断せずに相談しながら進めること、進歩を記録して次の改善につなげることを、学校全体に共通する働き方として大切にします。



北星学園女子中学高等学校
校長 カレン・ベッシン
Karen. E. Bessin

Ⅱ. 重点施策

1. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びバラルーツ教育を展開する体制を構築する。

(1)	新カリキュラム2年目として、各教科における生徒主体の学びの実践を定着させるため、探究的な学びの事例共有を継続し、教科間で実践の質を高めます。
(2)	各教科の到達目標の達成に向けて、学年進行に合わせた授業実践の接続を確認するため、実践状況の可視化を進めます。

2. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(3)	育てたい生徒像を明確にするため、A Life of Purpose を共通の枠組みとして位置づけます。
-----	---

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(4)	ステップルーム担任制と利用基準の運用を定着させ、多様なニーズに対応できる支援環境を整えます。
(5)	ハイフレックス・対面・課題を含む柔軟な学びの保障の仕組みを改善します。
(6)	SSW、教員、家庭、関係機関の連携を強め、支援体制の質を高めます。支援の流れを校内で共有し、対応のばらつきを減らします。

4. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(7)	外国籍等の生徒が日本の高校で学ぶための入口について検討します。あわせて、その目的に見合う広報の在り方も検討します。
(8)	他校の取組も参考にしながら、本校の方向性に合う受験生に届く募集の在り方を検討します。

5. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(9)	コース混合クラス運営の成果と課題を検証し、必要に応じて改善します。
(10)	新カリキュラムに対応したクラス編成と時間割の効率化を継続します。

Ⅲ. 教学

I. 教科教育

1. 国際基準を軸としたグローバル教育を展開し、異文化理解の深化を図る。

(1)	国内外の様々な学校との継続性のある交流を企画・実施します。
-----	-------------------------------

2. ICTの教育活動への利用について研究し、PBL学習、GS Labをはじめとした探究型教育の実践に活かす。

(2)	ICT・AIを活用した探究的・協働的な学びを各教科で継続・拡充します。
(3)	実践事例の共有を通して、教員間の活用格差を縮小します。
(4)	GS等で発表活動を継続し、学びを整理・発信する機会を充実させます。

3. グローバル教育の一環として自国の言語への理解を深めるとともに、アジア圏内の言語（中国語・韓国語）を第二外国語として履修できる体制を構築する。

(5)	After-school Programの韓国語講座を通して、実施方法・受講ニーズ・担当体制を整理し、第二外国語導入に向けた課題を明確にします。
-----	--

4. 新しい学力観の育成として、現在取り組んでいる「商品開発」の継続・発展を図る。

(6)	外部連携を活用し、デザイン思考や起業家精神に触れる機会を増やします。
(7)	高校段階での展開方法を検証します。

5. 伝統と特長を活かした魅力あるカリキュラムを作成し、実践する。学面的なカリキュラムと同時に、人間性のカリキュラムを取り入れ、生徒の勉強の力と生きる力を同時に育てていくプログラム作り。

(8)	GS・STEAM・学年行事を通した全人的成長を支える教育活動を継続します。
(9)	学問横断的な学びや社会人基礎力の評価方法を整理します。
(10)	新カリキュラム下での学習面サポート体制を整えます。

6. 建学の精神に基づき、さまざまな領域を積極的に学びリベラルアーツ教育を展開する体制を構築する。

(11)	新カリキュラム2年目として、各教科における生徒主体の学びの実践を定着させるため、探究的な学びの事例共有を継続し、教科間で実践の質を高めます。
(12)	各教科の到達目標の達成に向けて、学年進行に合わせた授業実践の接続を確認するため、実践状況の可視化を進めます。

7. 姉妹校をはじめとし複数の海外学校との提携を通して女子教育の世界的なネットワークを構築する。

(13)	交流校との関係を継続・発展させるとともに、新たな連携候補校の開拓を進めます。
(14)	交流が一過性のものにならないよう、継続的な枠組みづくりを検討します。

8. キリスト教教育に基づき、困難や試練の中にあっても平和を築く姿勢を確立する。

(15)	礼拝・感話・キリスト教教育週間を通して、平和を考える機会を継続します。
(16)	生徒の対話や発信を取り入れ、平和教育をより主体的なものにします。
(17)	教員も全校礼拝に継続的に参加し、霊的共同体として共に歩む姿勢を大切にします。

9. キリスト教教育を根幹に据えた言語教育を充実させ、言語を通して自分と向き合い、他者への理解を深める姿勢を確立する。

(18)	育てたい生徒像を明確にするため、A Life of Purpose を共通の枠組みとして位置づけます。
------	---

10. 上記目標やスクールポリシー・スクールミッション実現に向けた教員研修を実施し、教員の指導力を向上させる。

(19)	AI・探究・支援・評価に関する研修を課題や教員のニーズに合わせて継続します。
(20)	教員一人ひとりの個人目標が学校全体の方針と結び付くよう、設定と共有の仕組みを整えます。

II. 生活指導

1. 自律した生活習慣を身に付け、自治の精神が根付いた集団作りを行う。

(1)	自治的な学校作りのため定期的に自治委員会を開催し、生徒会執行部などとも協議しやすい環境を整えます。
-----	---

2. 女子単学の環境を活かし、自己を受け入れ挑戦できる土壌を構築する。

(2)	女子校で学ぶ意味を考える機会を交流・講話・行事を通して継続します。
-----	-----------------------------------

3. 様々な生徒のニーズをサポートするプログラムを行う。

(3)	ステップルーム担任制と利用基準の運用を定着させ、多様なニーズに対応できる支援環境を整えます。
(4)	ハイフレックス・対面・課題を含む柔軟な学びの保障の仕組みを改善します。
(5)	SSW、教員、家庭、関係機関の連携を強め、支援体制の質を高めます。支援の流れを校内で共有し、対応のばらつきを減らします。

4. 新しい学力観を充実させるために、学校規模に見合う部活動体制を構築し、大学との連携を図る。

(6)	After-school Program を継続し、生徒が「自分は何をしたいのか」を考える機会として発展させます。
(7)	家族・卒業生・地域人材との連携を広げます。

Ⅲ. 進路指導

1. 高大連携授業の内容と成果を検証し、多様な連携の在り方を模索し、学園内進学者の増加を目指す。

(1)	高大連携のねらいを明確にし、生徒の学びや進路に結び付くプログラムを継続します。
(2)	学園内大学・女子大学・同盟校との連携の可能性を広げます。

2. 海外大学への進学も含め、一人ひとりの生徒が望む多様かつグローバルな進路を実現する指導体制を構築する。

(3)	国際教育部を中心に海外大学進学を含むグローバルな進路を支援します。
(4)	提携校・推薦枠の確保に向けた整備を進めます。

3. 一人ひとりが目指す生き方を体現する進路選択が可能となる進路指導体制を確立する。

(5)	中高それぞれの進路説明・相談体制を継続し、その効果を図ります。
(6)	生徒の進路選択の幅を広げる情報提供を行います。
(7)	模試・資格検定・学習支援ツール活用を通して進路実現を支えます。

Ⅳ. 経営・管理

Ⅰ. 募集体制と広報

1. 探究的な入試問題の導入と受験生増加に向けた入試制度の在り方について研究し、実践する。

(1)	外国籍等の生徒が日本の高校で学ぶための入口について検討します。あわせて、その目的に見合う広報の在り方も検討します。
(2)	他校の取組も参考にしながら、本校の方向性に合う受験生に届く募集の在り方を検討します。

2. 通信制学校の研究と設置に向けた検討を行い、多様な学び方の実践と、生徒数の増加を目指す。

(3)	通信制・協力校連携等の可能性を引き続き検討します。
-----	---------------------------

3. 留学生・帰国子女入学生の積極的な誘致やインターナショナルスクールとの関係構築を図ることで、グローバルな空間を構築する。

(4)	校長・教員による英語・日本語でのブログ発信や SNS 発信を行い、学校の国際的な魅力を発信します。
(5)	留学生・帰国生・帰国子女などの学びを校内で共有する機会を増やします。

Ⅱ. 働き方改革

1. 管理職体制の見直しを図り、教育改革と学校運営に対応できるマネジメント体制を整備する。

(1)	教頭業務の検証と分担について再確認します。
-----	-----------------------

2. 教員の働きと役割を整備し、業務内容のスリム化を実現する。

(2)	分掌制度を再編し、各部の責任を明確にするとともに、業務の効率化を進めます。
(3)	学校行事の意義を A Life of Purpose の枠組みから見直し、必要な改善につなげます。

Ⅲ. 採用計画

1. 建学の精神を継承しつつ、新しい時代のキリスト教学校を担うに相応しい教員の採用を行う。

(1)	今後の人事計画に向けた課題の抽出を進めます。
(2)	学園内の人事交流の可能性について検討します。

2. 学校の適正規模を念頭に置いた人事計画を作成し、適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(3)	学園内・同盟校との情報交換を強化します。
-----	----------------------

V. 財務

Ⅰ. 財務運営方針

1. 2030 年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	募集につながる広報導線を分析し、SNS・ホームページ・説明会を連動させた広報を継続・改善します。
(2)	通信授業を行う準備を進めます。

2. 1クラスの生徒定員数の増加によるクラス数の削減、新カリキュラムによる総授業数の削減を行い、経費削減を図る。

(3)	コース混合クラス運営の成果と課題を検証し、必要に応じて改善します。
(4)	新カリキュラムに対応したクラス編成と時間割の効率化を継続します。

3. 奨学金制度に頼らない募集方法を研究し、奨学金の削減を図る。

(5)	奨学金制度の在り方を継続的に検討します。
(6)	生徒の向学心向上のため、競争力のある新しい海外留学旅行奨学金の企画・創設に取り組めます。

4. 学園全体の活動を海外在住の卒業生・関係者にもアピールすることで、新しい寄付金募集体制を構築する。

(7)	同窓生との連絡基盤整備を進め、将来的な寄付募集体制の土台づくりを行います。
-----	---------------------------------------

Ⅱ. 施設・設備

1. 札幌中心部に位置する学校として、校地・施設を地域に開かれたものとして活用する一方、南4条北側校地や盤溪校地の有効活用を図る。

(1)	地域とつながる学習と放課後活動を継続します。
-----	------------------------

(2)	宮の森キャンパス等の活用の検討を継続します。
-----	------------------------

2. CALL教室機器の老朽化に伴い、探究型教育言語教育に有効に活用できる施設を設計する。

(3)	施設の利用状況を確認し、協働学習や個別最適な学びにどう生かせるかを検証します。
-----	---

(4)	STEAM ルームや 3D プリンター等の活用を授業・行事・放課後活動に広げます。
-----	---

3. スミス寮の国際化についての研究と検討を行う。

(5)	国内の国際寮等の事例を調査し、留学生・海外入学生の受け入れに必要な生活支援及び手続き支援体制を検討します。
-----	---

以 上